

【開館55周年記念特別展】奥村土牛 —山崎種二が愛した日本画の巨匠 第2弾—

山種美術館では、開館55周年を記念し、当館がその代表作を多数所蔵している日本画家・奥村土牛(1889-1990)の展覧会を開催します。当館の創立者・山崎種二(1893-1983)は、「絵は人柄である」という信念のもと、同時代の画家と直接交流しながら作品を蒐集しました。特に土牛とは親交が深く、画業初期の頃から「私は将来性のあると確信する人の絵しか買わない」と土牛本人に伝え、その才能を見出して支援し、約半世紀にわたり家族ぐるみの交際を続けました。現在、当館は135点に及ぶ屈指の土牛コレクションで知られています。

土牛は、画家志望であった父親のもとで10代から絵画に親しみ、16歳で梶田半古(1870-1917)の画塾に入門、生涯の師と仰ぐ小林古径(1883-1957)に出会います。38歳で院展初入選と遅咲きでありながら、展覧会に出品を重ねて40代半ばから名声を高めます。美術大学で後進の指導にもあたり、101年におよぶ生涯を通じて、制作に取り組みました。土牛は、半古や古径から学んだ写生や画品を重視する姿勢を生涯貫き、「絵を通して伝わってくるのは作者の人間性」という自らの言葉を体現するような作品を数多く生み出しました。

本展では、瀬戸内海の鳴門の渦潮を描いた《鳴門》や、古径を偲んで制作した《浄心》、《醍醐》などの代表作をはじめ、活躍の場であった院展の出品作を中心に、土牛の画業をたどります。

土牛という雅号は、「土牛石田を耕す」の中国・唐の詩から父親が名付けたものです。その名の通り、地道に画業へ専心し続けた土牛。80歳を超えてなお「死ぬまで初心を忘れず、拙くとも生きた絵が描きたい」、「芸術に完成はあり得ない」、「どこまで大きく未完成で終わるかである」と語り、精進を重ねました。近代・現代を代表する日本画家として、今なお人々に愛されている土牛芸術の魅力を味わっていただければ幸いです。

※作品はいずれも山種美術館蔵

■展覧会名：【開館55周年記念特別展】奥村土牛 —山崎種二が愛した日本画の巨匠 第2弾—

*Special Exhibition Commemorating the 55th Anniversary of the Yamatane Museum of Art:
The Art of Okumura Togyū —A Master of Nihonga Whom Yamazaki Taneji Loved, Part 2*

■会 期：2021年11月13日(土)～2022年1月23日(日)

■会 場：山種美術館(〒150-0012東京都渋谷区広尾3-12-36) ■主 催：山種美術館、日本経済新聞社

■開館時間：平日：午前10時～午後4時 土・日・祝日：午前10時～午後5時(入館はいずれも閉館時間の30分前まで)
※今後の状況により会期・開館時間等に変更する場合がございます。

■休 館 日：月曜日[12/27(月)、1/3(月)、1/10(月・祝)は開館、1/11(火)は休館、12/29～1/2は年末年始休館]

■入 館 料：一般1300円、大学生・高校生1000円、中学生以下無料(付添者の同伴が必要です)

障がい者手帳、被爆者健康手帳をご提示の方、およびその介助者(1名)一般1100円、左記いずれかのうち大学生・高校生900円
※きもの特典：きものでご来館のお客様は、一般200円引き、大学生・高校生100円引き(複数の割引・特典の併用はできません)
入館日時のオンライン予約も可能です(詳細は当館Webサイトをご覧ください)。

■主な出品作品：約60点 すべて奥村土牛筆、山種美術館蔵 ※出品内容には変更が入る場合があります。

《甲州街道》、《雨趣》、《枇杷と少女》、《兔》、《春光》、《雪の山》、《啄木鳥》、《軍鶏》、《花》、《聖牛》、《舞妓》、《水蓮》、
《城》、《踊り子》、《浄心》、《鳴門》、《茶室》、《鹿》、《醍醐》、《シャム猫》、《ガーベラ》、《北山杉》、《早春》、《吉野》、《海》、
《富士宮の富士》、「奥村土牛から山崎種二宛書簡(牛)」ほか

本展のみどころ

1. 山崎種二との親交から築かれた屈指の土牛コレクションより代表作を大公開！

二人の親しい交流から蒐集された当館の土牛作品は135点を数え、質・量ともに最高レベルの土牛コレクションです。出品作品すべてが土牛による展覧会で、土牛芸術の世界を存分にお楽しみください。

2. 当館が所蔵する院展への出品作すべてを展示！

生涯にわたって院展で活躍した土牛。
当館が所蔵する院展出品作 全35点(秋の院展32点、春の院展2点、同人展1点)が一堂に会します。

3. 土牛の温かな人柄が感じられる作品が心を癒してくれます。

土牛は描く対象に真摯に向き合い、本質をとらえ、自身の内面を投影した作品を制作し続けました。
土牛の人間性が表れた温かみのある作品は、今でも多くの人々の心を癒してくれます。

■交通案内：JR・東京メトロ日比谷線 恵比寿駅より徒歩約10分

恵比寿駅西口前より都バス(学06番 日赤医療センター前行)広尾高校前下車、徒歩1分

渋谷駅東口ターミナル54番乗り場より都バス(学03番 日赤医療センター前行)東4丁目下車、徒歩2分

■問い合わせ：050-5541-8600(ハローダイヤル 電話受付時間：9:00～20:00)

■公式HP：<https://www.yamatane-museum.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/yamatanemuseum/>

Twitter <https://twitter.com/yamatanemuseum/>

Instagram https://www.instagram.com/yamatane_museum/

note <https://yamatane-museum.note.jp/>

報道関係の方からの
本件に関する
お問合せ先

展覧会広報事務局(共同ピーアール内) 担当/三井・瀬島

〒104-0045 中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア10F

TEL: 03-6264-2382 FAX: 0120-653-545 E-mail: yamatane-pr@kyodo-pr.co.jp



① 奥村土牛《雨趣》1928(昭和 3)年
絹本・彩色 山種美術館



② 奥村土牛《枇杷と少女》1930(昭和 5)年
絹本・彩色 山種美術館



③ 奥村土牛《兔》1936(昭和 11)年
絹本・彩色 山種美術館



④ 奥村土牛《雪の山》
1946(昭和 21)年 絹本・彩色
山種美術館



⑤ 奥村土牛《舞妓》
1954(昭和 29)年 絹本・彩色
山種美術館



⑥ 奥村土牛《城》
1955(昭和 30)年 紙本・彩色
山種美術館



⑦ 奥村土牛《浄心》
1957(昭和 32)年
紙本・彩色 山種美術館



⑧ 奥村土牛《鳴門》
1959(昭和 34)年 紙本・彩色
山種美術館



⑨ 奥村土牛《茶室》
1963(昭和 38)年 紙本・彩色
山種美術館



⑩ 奥村土牛《鹿》
1968(昭和 43)年 紙本・彩色
山種美術館



⑫ 奥村土牛《北山杉》1976(昭和 51)年 紙本・彩色 山種美術館 ↑



⑪ 奥村土牛《醍醐》1972(昭和 47)年
紙本・彩色 山種美術館



⑬ 奥村土牛《吉野》
1977(昭和 52)年 紙本・彩色
山種美術館



⑭ 「奥村土牛から山崎種二宛書簡(牛)」
20 世紀(昭和時代) 紙本・彩色
山種美術館

※ 出品作品および展示期間は都合により変更される場合があります。

※ 掲載の全作品は著作権が切れておりませんが、このたびの展覧会紹介に関する掲載については、当館が著作権者から画像使用許可をまとめて取っておりますので、本展周知の目的に限り使用が可能です。

▲ 広報画像申し込み用紙 FAX : 0120-653-545

- ※ 出品作および展示期間は都合により変更される場合があります。
- ※ 掲載、放映希望の画像を下記よりお選びの上、を入れてお送り願います。
後日、画像データ(JPEG)をメールで送信いたします。
- ※ 画像をご掲載の際には、下記の通りクレジット表記をお願いいたします。
- ※ 掲載の全作品は著作権が切れておりませんが、このたびの展覧会紹介に関する掲載については、
当館が著作権者から画像使用許可をまとめて取っておりますので、本展周知の目的に限り使用が可能です。

- 1 奥村土牛 《雨趣》 1928(昭和3)年 絹本・彩色 山種美術館
- 2 奥村土牛 《枇杷と少女》 1930(昭和5)年 絹本・彩色 山種美術館
- 3 奥村土牛 《兎》 1936(昭和11)年 絹本・彩色 山種美術館
- 4 奥村土牛 《雪の山》 1946(昭和21)年 絹本・彩色 山種美術館
- 5 奥村土牛 《舞妓》 1954(昭和29)年 絹本・彩色 山種美術館
- 6 奥村土牛 《城》 1955(昭和30)年 紙本・彩色 山種美術館
- 7 奥村土牛 《浄心》 1957(昭和32)年 紙本・彩色 山種美術館
- 8 奥村土牛 《鳴門》 1959(昭和34)年 紙本・彩色 山種美術館
- 9 奥村土牛 《茶室》 1963(昭和38)年 紙本・彩色 山種美術館
- 10 奥村土牛 《鹿》 1968(昭和43)年 紙本・彩色 山種美術館
- 11 奥村土牛 《醍醐》 1972(昭和47)年 紙本・彩色 山種美術館
- 12 奥村土牛 《北山杉》 1976(昭和51)年 紙本・彩色 山種美術館
- 13 奥村土牛 《吉野》 1977(昭和52)年 紙本・彩色 山種美術館
- 14 「奥村土牛から山崎種二宛書簡(牛)」 20世紀(昭和時代) 紙本・彩色 山種美術館

* 下欄にご記入いただいた個人情報は、本展覧会広報用写真貸出の目的にのみ使用し、それ以外の用途には使用しません。

貴紙(誌)名/番組名/サイト名(URL) :

掲載・放映予定日/コーナー名 :

掲載号発売日 :

貴社名・部署名 :

ご担当者 :

ご住所:〒

TEL :

FAX :

E-mail :

提供画像の必要期限 :

月

日まで

< 読者プレゼント招待券 > 5組10枚

希望します

応募〆切 月 日頃を予定

本展覧会の作品写真及び読者プレゼント招待券を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、FAX またはメールでお申し込みください。画像についてはJPEGデータにてお送りいたします。

- * 読者プレゼント招待券(5組10枚)の提供は、作品写真1点以上をご掲載の上、本展覧会を紹介いただける場合に限らせていただきます。
- * 掲載・放映の際には、作家名、作品名、所蔵先クレジットを必ずご記載ください。
- * 画像のトリミングおよび文字のせはご遠慮ください。
- * 展覧会広報に関係しない記事でのご使用はお断りいたします。
- * 作品タイトル、クレジット表記の確認をいたしますので、原稿が出来上がりましたら、ゲラを展覧会広報事務局担当者まで直接お送りいただきますよう、お願いいたします。
- * 掲載後、下記宛先に見本を1部お送りください。

報道関係の方からの
本件に関する
お問合せ先

展覧会広報事務局(共同ピーアール内) 担当/三井・瀬島

〒104-0045 中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア10F

TEL : 03-6264-2382 FAX : 0120-653-545 E-mail : yamatane-pr@kyodo-pr.co.jp